



全ての力を小野よしみ に!

久原県連合代表 総合選対委員長に選出

昨年11月の参議院選挙で二%の政党要件をクリアしたとは言え、組織としては危機を乗り越えたとは思えず、県連合の現状では春の統一地方選挙で公認候補を擁立して県議選を闘うことは極めて厳しいことだと認識してまいりました。

しかし、参議院選挙を闘うなかで、社民党を何とかしなければ!社民党を継続し、さらに地域の中で活動できる政党にしたいとの熱い思いで、大分市選挙区に立候補したいと小野よしみ常任幹事から申し出がありました。

困難な厳しい闘いになることを想定しながらも、県連合幹事会、大分支部定期大会での議論を経て、「小野よしみ」を大分県議選候補として正式に闘うことを決定しました。



大分駅前・大道・宮崎交差点等でスタンディング

昨年十一月に「小野よしみ」総合選対を立ち上げ、同時に選対会議を開催し年内の行動として①協力者カードによる得票 ②旧黨員・OB関係者への呼びかけを行いました。

二〇二三年 新たな気持ちで必勝へ

第二回選対会議を一月十八日に開催し、情勢と当面の行動について協議しました。

大分市選挙区での立候補者は十八、二〇人が予想されています。いずれにしても今のままでは、我が陣営の厳しい状況に変わりはありません。黨員・協力黨員の皆さんの更なる得票の上積みをお願いする次第です。

厳しい寒さの中、小野よしみ氏は朝夕、スタンディングで頑張っています。この熱意に応えようではありませんか。

「小野よしみ」を励ます集いを開催します

2月11日(土)13時～
ふれあい会館

小野よしみ候補応援に
新垣クニオ衆議院議員来分!

黨員・家族・支援者
多くのご参加を
お願いします



新垣クニオ衆議院議員

大分の未来は
われらが決める!

社民党SNS学習会参加

昨年十二月二十一日、社民党SNS学習会が参議院議員会館で開催され、オンラインで参加しました。

今日、選挙においてSNS対策は不可欠であり、各党の選挙戦においても一定の成果

党の主体性が試される選挙

が出ています。社民党にとってもさらに充実させなければならぬ課題であり、各都道府県連合からも要望が出ており、今回の開催となりました。講師の津田さんからは「人間は必要に迫られて行動する。コロナ禍でオンライン会議もできるようになった。社民党にとってSNSの活用は必須だ。苦意思識を払拭していただきたい」との呼びかけがあり、あらためてネット発進力の強化に取り組んでいかなければならないと感じました。

社民党大分県連合副幹事長
高野 博幸



今回の県議会議員選挙は、これまでの選挙戦と違い労働組合の支援は全くありません。党主体の闘いとなります。当選するために必要とされる三つのカバンもありません。ゆえにポジティブに考えれば誰にも遠慮することなく社民党公認「小野よしみ候補」の支持を拡げていくことができます。社会民主主義の理念を市民に訴えるチャンスです。

憲法擁護県民会議 定期総会に参加して

二〇二二年十二月八日、アイネスにおいて憲法擁護大分県民会議第四十八回定期大会が開催されました。

一部で経過、運動方針、役員改選が行われ、代表委員に久原和弘氏、事務局次長に馬場徳明氏が満場一致で承認されました。続いて二部では「吉井千周教授（富山大学）の『国民との約束としての日本国憲法』の演題で記念講演がありました。

まず「十二月八日は太平洋戦争の開戦日で、先の大戦で三百万人を超す大きな犠牲者を出しましたが、その八割の方が飢餓や病死でした。また特攻隊もいろんな原因で引き返した隊員を隔離、そして謎の死…」当時の実態を聞き、改めて戦争の悲惨さに驚きました。

続いて、憲法のできた本質（基本は人権）と「自民党と日本会議を先頭に、地方から草の根運動的に憲法改正を求める動きが急速に活発化している。

今こそ戦後の大きな危機的な転換期となっている。



党員・党友の皆様へ

私はこの度、県議会議員選挙に立候補した「おのよしみ」の息子の努です。今回の立候補は、これまで母が歩いて来た道の中で、必然的であり運命的なものであるような気がします。

私は幼い頃から大きくなるまで、母や亡くなった父（博文）に連れられ組合運動や選挙、女性たちの平和行進、メーデーなど、いろいろな所にごく自然に参加してました。それが私にとって普通の事でした。その事を大人になり父や母に聞くと、その活動も活動を共にする仲間たちと共に一步一步、地道に活動し、どんな時も変わらない思いで今日に至るまで続けてきた。その事を知りました。

私は今、社民党は大きな転換期にあると思っています。父と母が青春をかけ、40年に渡る続けて来たこの活動、初めはこんこんと勢い良く出てきた水が、今はそれが時代なんだというように、水は勢いを失い細くなっているように私は感じていました。しかし今回、母から立候補の話聞き、その水はまだ確かにそこに流れていて、もしかしたら大きな川になるかもしれない水なのだと思います。まだまだ社民党に期待している多くの人がいるのではないかと、いとすればそういう人達の期待に少しでも応えたいと立候補表明した母に息子としてエールを送りたい。母と亡き父が共に歩いた道を体現するチャンス、戦争無き平和を願う母の熱意は人一倍、地方から頑張りたいと思っております。

党員・党友の皆様のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

小野 努



私の考えは社民党の考えに一番近いと考える」と、結びました。大分支部連合常任幹事 本田賢司

軍靴の足音がそこまで！
もはや戦後ではなく戦前！

市民の声を中央へ！ 小野よしみが 吠える～！

1月6日、竹町ドームにてスタンディングをしていました。何人かの方に声をかけていただきました。温かいペットボトルの差し入れもいただきました。その方は70過ぎの男性で、「年金も削減される中、物価はドンドン上がり生活はますます苦しくなっている。わたしはまだ働かなければいけないのか」と、おっしゃっていました。

わたしと同じ世代の女性の方は「バイデン大統領は、在日米軍基地を守ろうとしても絶対に日本を守ろうとはしない、ウクライナをみて明らか、子どもや孫が安心して暮らせるためには平和外交にもっと力をいれて欲しい。貴女も頑張ってください！」と励ましてくれました。

岸田政権は、アメリカの言うがままに軍拡を押し進め43兆円もの巨額の税金を投じようとしています。わたし達の暮らしや子どもたちの未来に使う気はサラサラない！こんなことを許してはならないと改めて強く思いました。

地方自治の確立で今こそわたし達の暮らしをうるおいのあるものにするため、地方分権を成し遂げる時ではないでしょうか？明石市のように、やろうと思えばやれることはたくさんあるはずです。いっしょに声を上げていきましょう。

